

報告

第 21 回 北東 3 地域本部技術士交流研修会

澤 田 浩 一

1. はじめに

第 21 回北東 3 地域本部技術士交流研修会が、去る 2018 年 10 月 10 日(水)札幌市内のホテルで開催されました。

当日は、統括本部から高木会長をお招きし、東北本部からは吉川本部長ほか 9 名、北陸本部からは大谷本部長ほか 10 名、北海道本部は森本部長ほか 62 名の参加者を合わせて総勢 85 名の方々の参加をいただきました。研修会は、北海道本部事業委員会委員である菅藤技術士の司会進行により、特別講演、研修発表をはじめ予定していたプログラムを滞りなく終了しました。

2. 交流研修会概要

この研修会は、地域の自然、文化、産業構造が類似する北東地域に在住する技術士が、地縁技術の掘り起こしとそれらの情報交換を行い、北東地域の発展に寄与することを目的として、平成 10 年度から北陸本部、東北本部、北海道本部の 3 地域本部が持ち回りで毎年開催しています。

今回は、北海道本部の担当であり、「変わりゆく地球環境と技術士の取り組み」を研修会テーマとしました。

開会にあたり、森北海道本部長の挨拶に始まり、東北地域本部の吉川本部長、北陸地域本部の大谷本部長からのご挨拶に続き、来賓の高木技術士会会長より祝辞を頂いた後、基調講演と 5 編の研修発表がありました。



写真-2
北海道本部
森本部長



写真-3
東北本部
吉川本部長



写真-4
北陸本部
大谷本部長



写真-5
日本技術士会
高木会長



写真-1 研修会場の様子

表1 発表プログラム

<p>【基調講演】 「氷海に出現した海の道(北極海航路)と日本」 北海道大学 北極域研究センター 教授 大塚 夏彦 氏</p>
<p>【研修発表】 「省エネは北海道、再エネは福島に学ぼう！」 福島大学 赤井 仁志 氏 「再生エネルギーに係る環境アセスメントの動向」 田中菜摘技術士事務所 田中 菜摘 氏 「ストップ温暖化！エコアクション21の活用」 シゲル環境技術士事務所 佐藤 滋 氏 「今、一人の森林技術士が立ち上がりました」 広田技術士事務所 広田 史子 氏 「人口構造が変化する北海道での自然エネルギーの活用について」 伊藤組土建株式会社 滝澤 嘉史 氏</p>

また、本研修発表会後、会場を移し交流会が行われました。

3. 基調講演(大塚 夏彦 氏)

北極海を横断して大西洋と太平洋を結ぶ北極航路は、ロシア沿岸を通る北東航路、カナダ多島海を通る北西航路及び北極海中央を横断する極点航路が考えられている。



写真-6

北東航路のうち、ノバヤゼムリヤ島を西端、ベーリング海峡を東端とする区間のロシアでの呼称が北極海航路(NSR)であり、冬は海水に閉ざされ、夏でも海水が残るが、欧州とアジア間のスエズ運河回りに比べて3～4割航行距離を短縮でき、海賊や狭隘海峡通過のリスクを回避できる。

2010年、北極海航路を東西に横断する欧州・アジア間の国際トランジット輸送の試験航海成功を契機に、2013年までに急拡大したが、2014年に生じたクリミア危機による対露経済制裁で急激に減少し、低迷は現在も継続している。しかしながら、NSRの総貨物量は継続的に増大しており、特にカラ海ヤマル半島で進められてきたヤマルLNG基地建設関連貨物の増大が一因となっており、2017年

末にLNG工場が生産を開始し、今後LNG輸送が本格化する見通しである。

また、中国政府は2012年、現代版シルクロードといえる「一帯一路」構想を明らかにし、さらに2018年「北極政策白書」を発表しており、NSR政策を含む北極政策は、公式に一帯一路プロジェクトの一翼を担うこととなった。

宗谷海峡と津軽海峡は、NSRを経て太平洋から東アジアへ向かう船が通過する要衝であり、北海道は、NSRを横断した船が初めて出会う先進的地域である。このようなNSRの持続的な利用実現のためには、産・官・学の多様な連携が不可欠であると講演されました。

4. 研修発表

4.1 東北本部

(赤井 仁志 氏)

地球環境の保全や化石燃料の削減には、省エネと再エネが重要である。日本でエネルギーの1/3を消費している民生部門(家庭・業務)は、給湯や暖冷房での省エネルギーが大切である。北海道は、建築の断熱性・気密性の向上や適切な設備システム導入により、快適な居住空間を生み出し、エネルギー削減が進んでいる。2040年までに再生可能エネルギー100%を目指す福島県は、ハードとソフトの両面で、先進的な取り組みを行っていることについて発表されました。



写真-7

東北本部・赤井技術士
衛生工学/総合技術監理部門

4.2 東北本部

(田中 菜摘 氏)

再生可能エネルギーの利用が推進され、風力発電等の事業計画が急増している。一定規模以上の風力発電事業は環境アセスメント手続きが必要となるが、一



写真-8

東北本部・田中技術士
建設/総合技術監理部門

部に地球環境の保全が十分に考慮されていない事例、関係者間の調整が十分でなく事業が円滑に進まない事例がみられる。このような問題を踏まえた再生可能エネルギーの推進に係る環境アセスメント制度の新しい取組み動向や地域コミュニケーションの事例について紹介されました。

4.3 北陸本部(佐藤 滋 氏)

エコアクション 21 の審査員として活動をしている。パリ協定や地球温暖化対策等を受けて中小事業者はサプライチェーン及びライフサイクルを通して環境への取り組み、CO2 排出量の把握と削減、並びに環境配慮型の事業者や商品・サービスが評価される仕組みを説明するとともに、エコアクション 21 の普及と事業者が環境経営の実行性を高めることを推進していると発表されました。



写真-9
北陸本部・佐藤技術士
環境部門

4.4 北陸本部(広田 史子 氏)

変わりゆく地球環境において、温暖化の原因ともされる大気中の CO2 濃度の増加は、誰もが知る大きな問題である。その対策として、森林の CO2 の吸収・固定能力にも期待が寄せられているが、一方、それらを進める我が国の森林管理の現場は、山村の疲弊や国際経済の競争の中で弱体化してしまったことも否めない。産業としての林業・木材産業を支えながら森林の持つ地球温暖化の抑止効果を発揮させていくにはどのような技術が有効なのか、一人の開業技術士として何ができるのかについて発表されました。



写真-10
北陸本部・広田技術士
森林部門

4.5 北海道本部(滝澤 嘉史 氏)

人口減少・高齢化が急速に進む北海道で、太陽光、水力、風力、バイオマス等の自然エネルギーが豊富に存在する地域特性を活かし、エネルギーを地産地消して地域を豊かにすることが非常に重要と考える。北海道の自然エネルギーポテンシャルを説明し、木質バイオマス活用事例、自然エネルギーを蓄える大型蓄電施設の実証事業や水素社会を実現するための実証試験等の事例を紹介されました。



写真-11
北海道本部・滝澤技術士
建設/総合技術監理部門

5. 閉会

研修発表終了後、北海道本部の大熊副本部長より、技術士が直面している地方創生に果たすべき役割についての意義深い本プログラムの終了と、次回東北本部主催の研修会が盛会であることを祈念し、閉会の挨拶とされました。



写真-12
北海道本部
大熊副本部長

6. 交流会

会場を移し約 70 名の参加をいただき、青木実行委員の司会進行で、皆さんお楽しみの交流会が行われました。

交流会では北海道本部の池田副本部長の挨拶に始まり、飯野実行委員長乾杯で開宴しました。北海道の山海の味覚をはじめ、ご当地グルメの美唄・室蘭焼き鳥、名寄煮込みジンギスカン、オホーツク北見塩焼きそばなどに加え、各本部の地酒等を存分に堪能して頂くとともに、全員参加の技術士大ビンゴ大会では、北海道本部の誇る名司会コンビにより会場は大いに盛り上がり、北陸本部、東北本部、北海道本部の交流が深められました。

最後に北海道本部の高桑副本部長による万歳三唱

で閉宴しました。



写真-13 交流会挨拶 池田北海道副本部長



写真-16 技術士大ビンゴ大会の名司会



写真-14 開宴乾杯挨拶 飯野実行委員長



写真-17 閉宴挨拶 高桑北海道副本部長



写真-15 開宴乾杯



写真-18 閉宴万歳三唱

7. おわりに

2018年9月6日に発生した最大震度7の北海道胆振東部地震対応の真っ只中にも関わらず、多くの参加者を得た研修会では、3地域本部より様々な視点での「地域における技術士の取り組み」が発表され、参加者は広い知識が習得されたものと考えます。

本研修会のような地域本部をまたぐ技術士の情報交換、交流はさらなる会員相互の交流の活性化が図られることから、これからも継続した開催と多数の参加を期待します。

澤田 浩一 (さわだ こういち)

技術士
(建設/水産/環境/総合技術監理部門)

北海道本部 事業委員会 委員
(株)福田水文センター 環境水工部
e-mail:k-sawada@f-suimon.co.jp

